

A.429
8

鹿兒
嶋
戦争

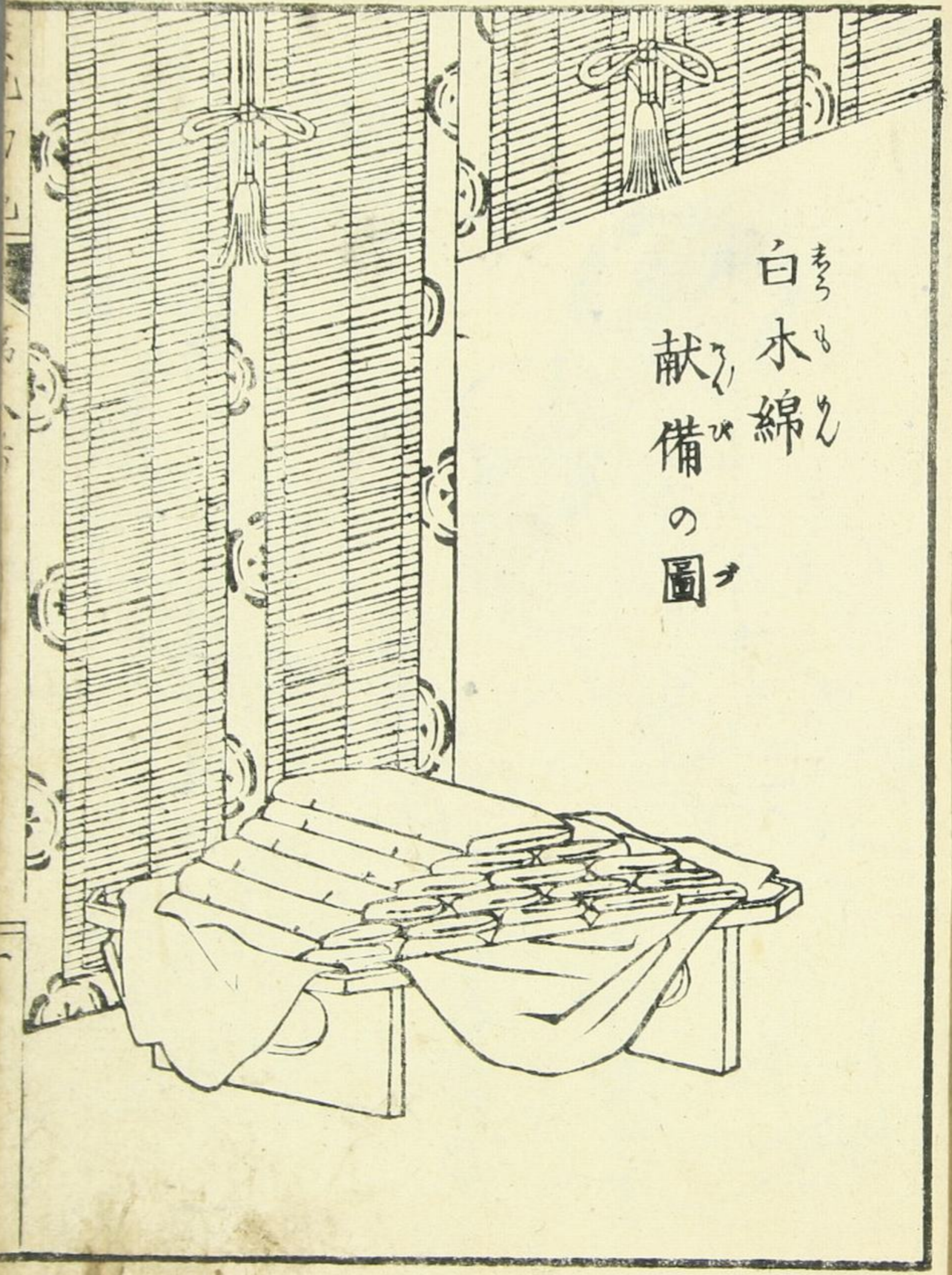
日記

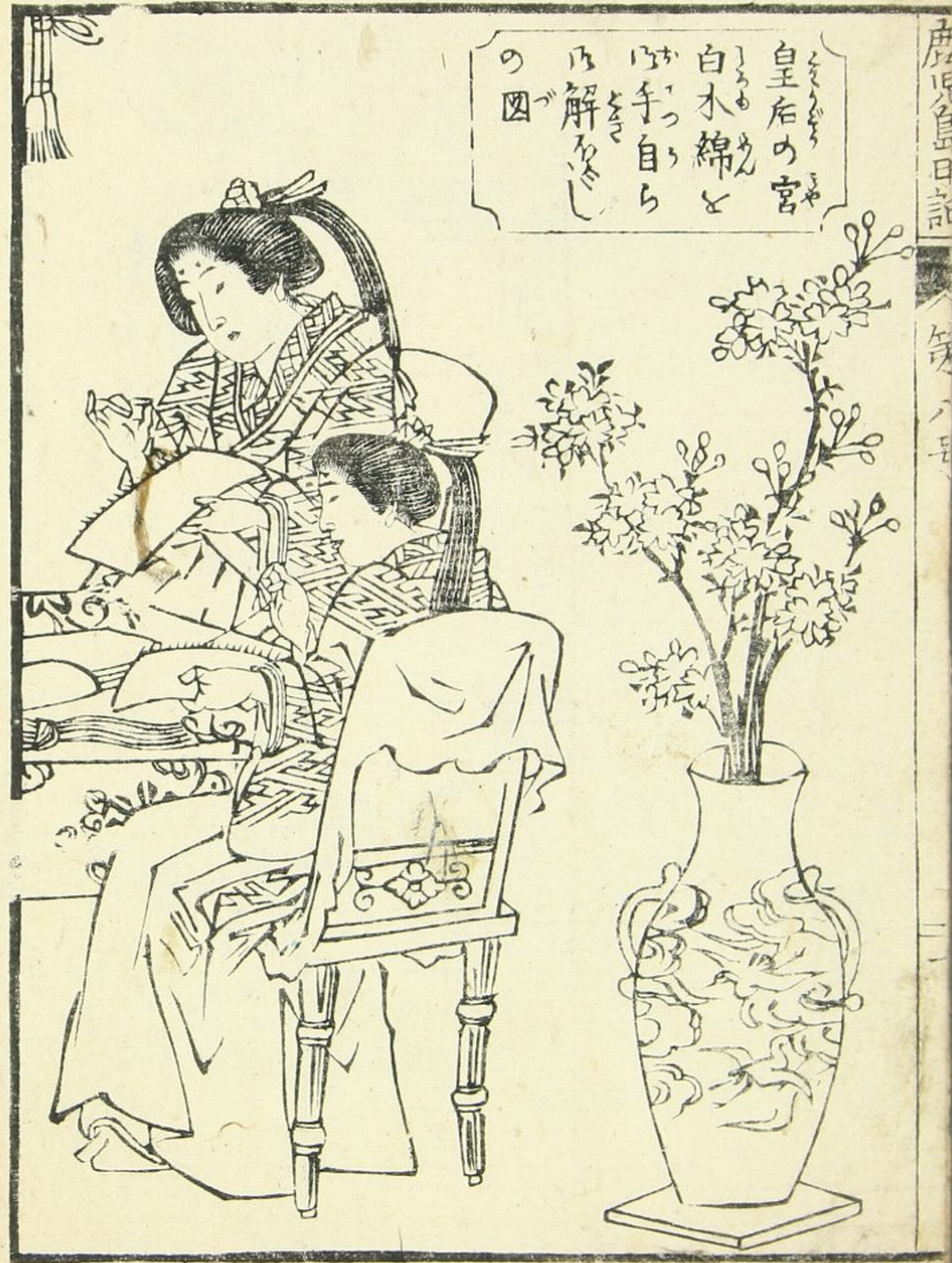
八号



48-7884

白^ま水^み綿^{めん}
献^{けん}備^びの圖^ず





皇后の宮
 白木綿と
 手自ら
 解るし
 の囀

唐風鳥日記

左の五

○堺縣士族旧渡邊藩より鉄砲の達人一
 隊募らるる戦地へ出張されるとり二月
 十四日十五日は山鹿口の戦争のとき野
 津少将を突然と桐野の隊へ真ツきたる
 むうのく裂風の如く進撃したるを
 暫時は八丁余も追ひ返されしと無事その
 とき桐野の勢を總兵をむとるたりと
 の人電報あり又都合より今月二十五日總
 兵大進撃はありと云ふは十七日長崎よ
 りの知らせは鹿見島より取り上げし器

械弾薬を蒸気船二艘よりそのから海川へ
 まるしに敷き置きたる十八日戦地より
 知らせし賊のよりより攻め立るの策を兵
 隊も揃ひしゆ名高島大佐の一大隊半と巡
 査七百人を今日午前五時半より長崎を出
 帆なり明後二十日八代へ上陸しる攻撃の
 苦とあり此の知らせを得るその機は素
 のより一大隊と巡查五百人を宇土より
 攻撃し遂は一口ふ合しる衝突の苦づを
 是ゆ名都合より同所より合体するも

計りしがと有りませ。大坂の知らせ
小内牧へ出張の警視隊のらち警部四人
が巡查十三人引き連せし。小黒川村ふく
賊乃番兵よ出逢ひ巡查とより砲發し
進撃せると賊も六十人のりまり前後を
岡と苦戦となりけるゆゑ内牧サカトシ
より直に援兵を繰り出せしと云ふ
知らせ。仁礼大佐も清輝艦に乗り組み
と日進艦ととも小十七日夕六時。肥後の
小島よ廻らしとあり

○大山綱良より中原をけ外へとせし心
得書も西郷の手よ在りと人よ見せし
と云ふ。不審の第一あり。賊の亡びると
賊く気候作くべし。新納を生捕せし
手たつとつと扱ま。賊將篠原國幹が討
死し。廣見島も葬禮せし。事件不
十七日の知らせも篠原の髪の名と大久
保某が持参し。廣見島へ葬送せし。由
を高島大佐が聞届ける。と野津少
將の戦地より腰の刃へ玉疵と負しと



西郷小平
らち死の
因

熊本縣の四等警部岡本忠一郎君と
一等巡查西村誠造君を戦地のやうまを
申上るたため大坂へ着せしむるとこの程
格別の御思召も竹内侍醫と山川侍
医と紙宮内省より疵人療治のため福岡
へ遣はさしめし伊豫の松山道温泉の邊
へ砲兵支廠の分局を置けしむるといふ沙汰
ありまゝ丹波龜山の士族三百八十人を入
り度的事變よつた相應の御用を仰せ付
らしたるいと出願せしむると東京大藏組より

劍の五百本警視局へか買入とまゝあり大坂
廻されしとあり
○二十日長崎よりの報知し黒木中佐が
二中队と巡查百人を率ひて日本奈久より
上陸され賊の不意と打ち賊を散々よ
る向う狼狽し分捕りあり川路
君ハ陸軍少将兼大警視に任ぜしむ仁礼
大佐も高橋近傍の軍艦二三艘よて猛勢
を見せおれた高橋大佐も一大隊半と江口
三間の隊を率ひて上陸せし進軍のあり

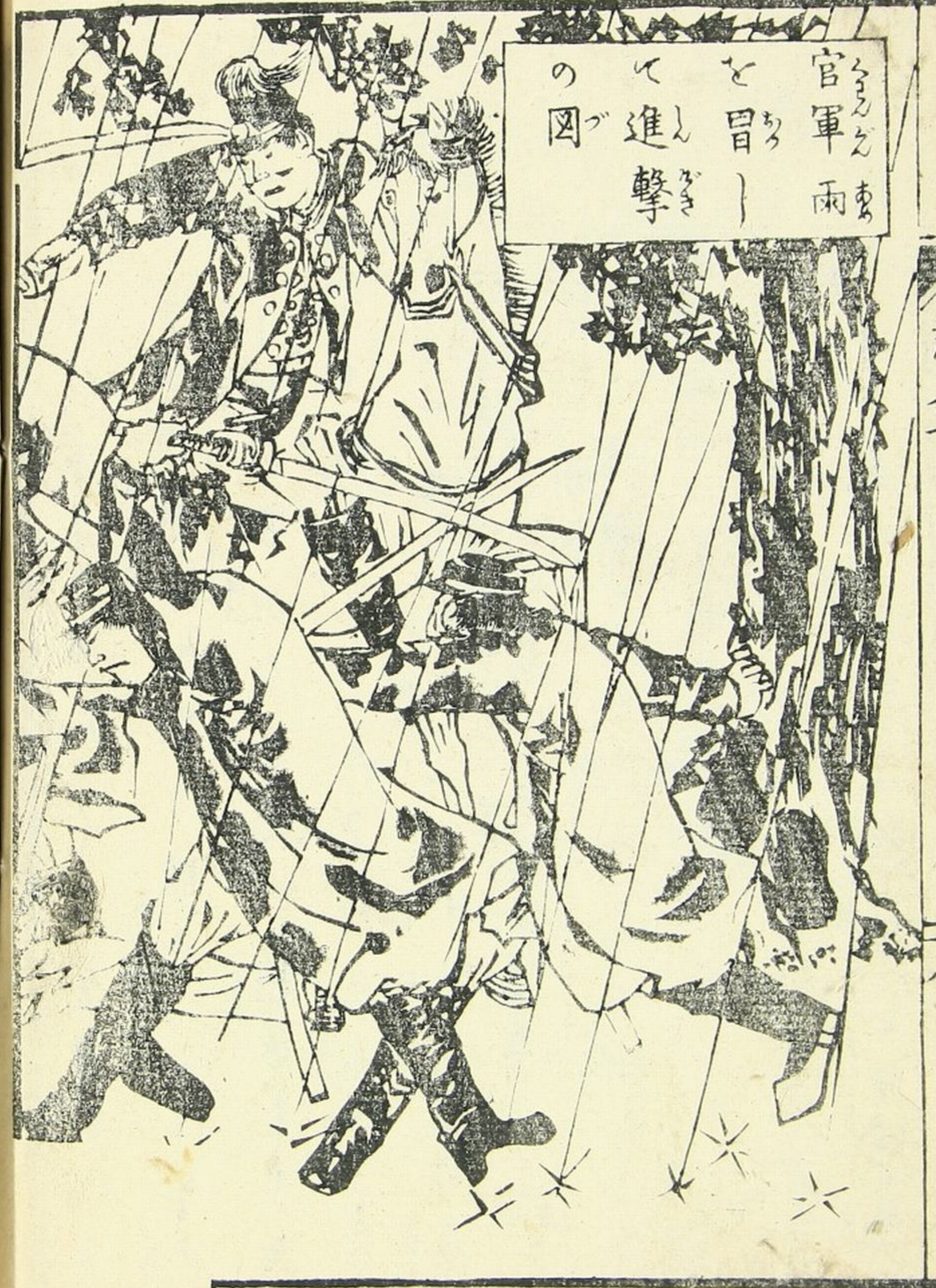
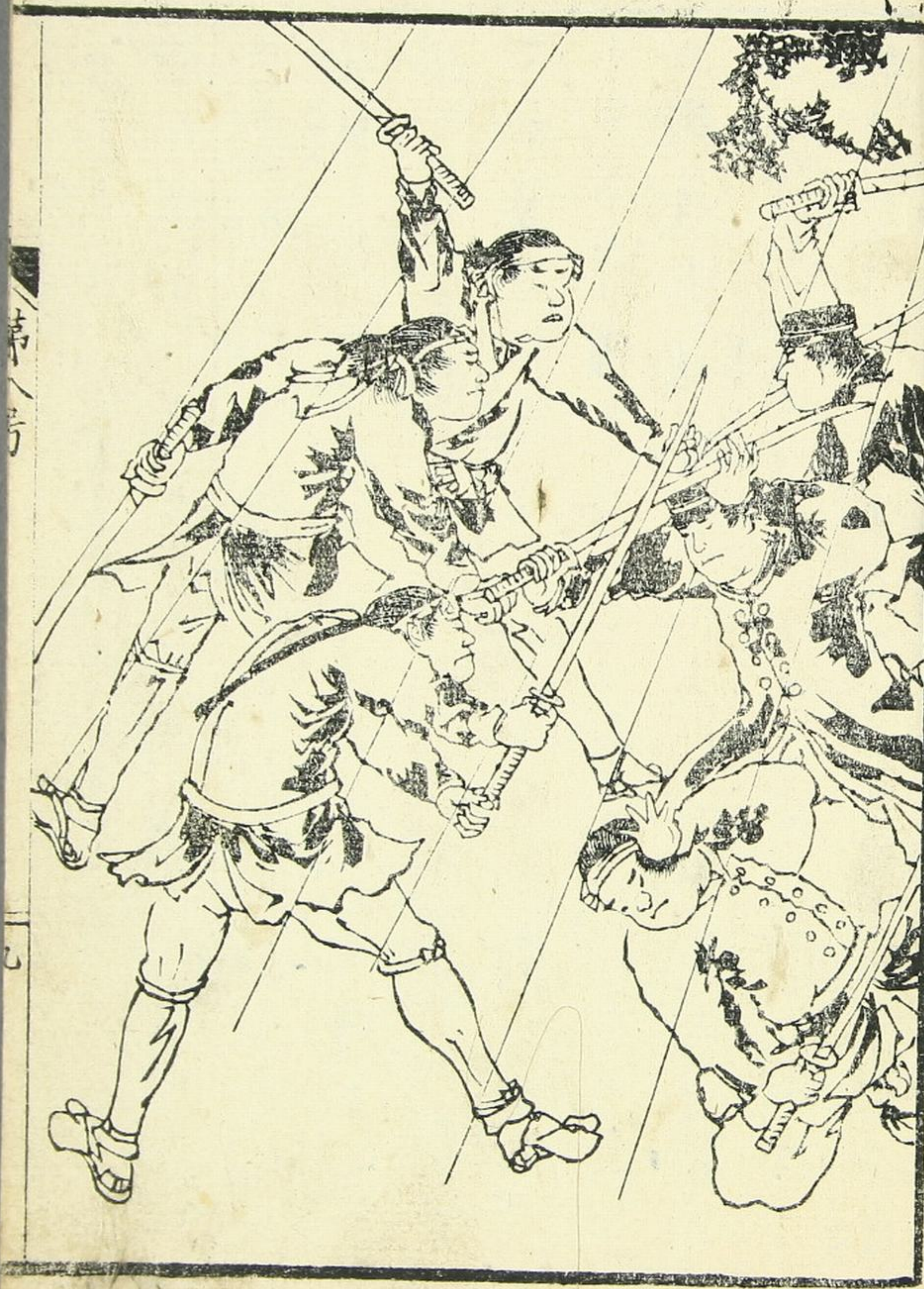
よ依りまう一大隊半と國分追田の隊と
黒田参軍その外一同宇土より上陸し
川尻手より入るる二手が一途より成り大進
撃の手筈みそ第一手ハまぜよ今朝四時
出帆し明後日ハ一統戦ひに進むと
○過日勅使鹿兒島へ到着の日まどハ西
郷黨城下より残りてあつても追々肥後地へ
出張し勅使の着のつたより大義を乱せ
トと氣のつたゆるゆゑよや國と出るものも
ありといふ風説あり

○黒田老候ハ十四日ごろは鹿兒島とたれり
と云ふ今月十二日田原ざりふと楫斐
大佐も戦死すは賊の西郷小平も全く
深手と負ひしといふ今度陸軍より小銃と
発せし數ガ一日平均より六十萬發をど
まて大砲も一日平均より四十七八發を
ゆゑ弾薬は少なるをまゝと在るは仁
よ来りし書面は熊本市中ハ昨今家の焼
くは宿舎と成り見るとせぬほどの焼
ゆゑ逃げしきたる何れ山の中や河原より

破と一戸まど死家根と存一と凌ぐも有り
木の下ろく凌ぐも有り食事と一たくも
煮やたの道具もなく實は影もあたる
さぬよく一同西郷ゆあみかく苦一とを
けろくと涙を流したぐひよ袖と絞りろ
ろを哀さあり

○昨今皇后宮御手づくり白木綿残と
不と一あふと云ふおまの戦地の怪我人
の療治ははる必要の品とく臣と以恵と
下さる有ぐた次第あり

○三十日木の葉よりの知らせよ今日未明よ
り進撃うく田原坂と取り植木へまくと大
砲四門と小銃二百挺を分捕り植木をやた
弾茶まども焼き一と有り同日長寄より
の知らせよ十九日午前十一時日奈久の南
須口村へ兵隊と巡査が上陸なり日奈久よ
賊三小隊やと屯集一と在り一が防ぎもや
らと散乱せ一とあり午後三時ら八代
へ着し同所の士族ら方向張あやまらざら
ゆ名都合よくあゝの士族は探索とさせて見



官軍 兩軍
を 冒す
て 進み
の 撃つ

青
山

るに賊と高瀬の防ぎふ力とはくくしと當
地に備へ薄きゆゑ明日より宮原境町
の要所へ兵隊進める手をもぐと在り十九日
西京より知らせよ二十日午前五時雨を
冒し進撃しその道を吉次越し通ぢ
る右翼と田原坂の本道の左翼との両方
とも不守備をみたニク朕より進んで真中
の街道を攻撃し大いふ賊軍を破れり
九時より植木に達して火をともち頼り
戦ひしと左右の賊壘をくくして技を守

備と進撃し兵員と要をくく

○有栖川總督の宮今月二十日南の関より
進きて同日木の葉よりの報よ今朝進撃
しあり植木のさたを進し田原坂もま
みらつ直し熊本へ攻入るもぐ本營と一
旅團の會計部も今日植木よりあり熊
本への道もむけ次第し兵糧その外は
りの充分なりき此日も雨降りより早
朝より大進撃田原坂の本道より押への兵
を置き二侯口の間道よりま官軍勝利

まきでよ植木を乗ッ取り只今向坂より戦
争中と有りまき久苗米の知らせふ今朝
劇戦より植木のさたへ進み田原坂も落し
更よ熊本へせり入るるが山鹿口も急速
しどしどと有り

○鹿見島縣令の大山綱良の官位被剝が
とるや否や直よ捕縛され権大檢事国内
春俊君が護送し大坂より名護屋丸より
東京へ送りとある

